

- 2-3日のFOMCで米政策金利据え置きと資産買い入れ縮小が決定。声明は足もとの物価上昇について想定以上に長引く可能性を示唆。パウエルFRB議長は、まだ利上げのタイミングではないとした。
- 米S&P500種指数は5日連続で過去最高値を更新した。市場では、利上げが前倒しで行われるとの見方に傾いているとみられる。米金融政策の先行きをめぐるFRBと市場との温度差が気になるところ。

声明は物価上昇が想定以上に長引く可能性を示唆した

2-3日に米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催され、政策金利であるフェデラルファンド（FF）金利の誘導目標を0.00～0.25%に据え置くことが決定されました。このほか、これまで毎月1,200億米ドルのペースで資産買い入れを行ってましたが、今月から毎月150億米ドルずつ縮小することがあわせて決定されました。

今回の決定は経済の進展を踏まえたものですが、声明では高水準のインフレについて、前回は「一過性の要因」と断定していたものを、今回は「一過性と予想される要因」としており、足もとの物価上昇について想定以上に長引く可能性を示唆しました。

3日の米国市場では、FOMC声明発表後に主要株価指数や長期金利が上昇しました。また、声明発表後の記者会見でパウエル米連邦準備理事会（FRB）議長が、インフレへの対応はちゅうちょしないとしつつも、まだ利上げのタイミングではないと発言したことが好感され、主要株価指数は上昇幅を拡大、S&P500種指数は5日連続で過去最高値を更新しました。

市場は利上げが前倒しで行われるとの見方が優勢か

9月22日の前回FOMC終了後に公表された政策金利見通しでは、同参加者の半数が2022年に利上げを適切と見込んでいることが示されたほか、2023年末までに利上げが合計3回行われる（利上げ幅0.25%につき、1回とする）と見込んでいることが示されました。

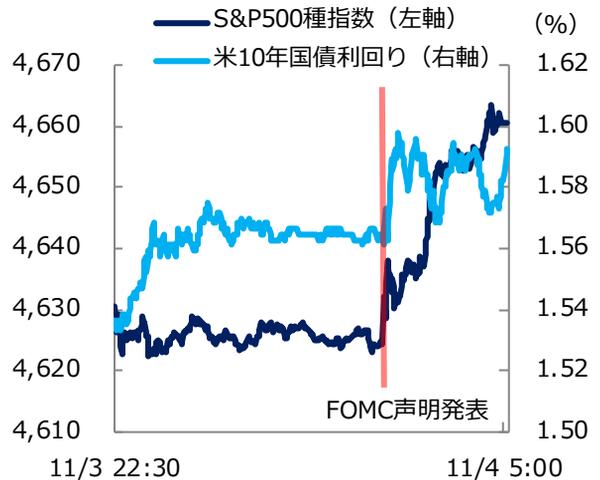
これに対し、11月3日時点では、米政策金利であるフェデラルファンド（FF）金利の先物取引をもとにブルームバーグが算出した、市場における金融政策の織り込み度合いや、金利スワップ取引の1つで、中央銀行の金融政策動向を探るうえで注目されている、オーバーナイト・インデックス・スワップ（OIS）をみると、2022年末までに利上げが2回行われる可能性を、また、2023年末までに利上げが4回行われる可能性を織り込んでいます。

今回のFOMCでの資産買い入れ縮小決定は、市場におおむね織り込み済みだったといえます。市場の関心は利上げの開始時期やペースに移っていると考えられますが、市場ではすでに利上げが前倒しで行われるとの見方に傾いているとみられ、米金融政策の先行きをめぐるFRBと市場との温度差が気になるところです。

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

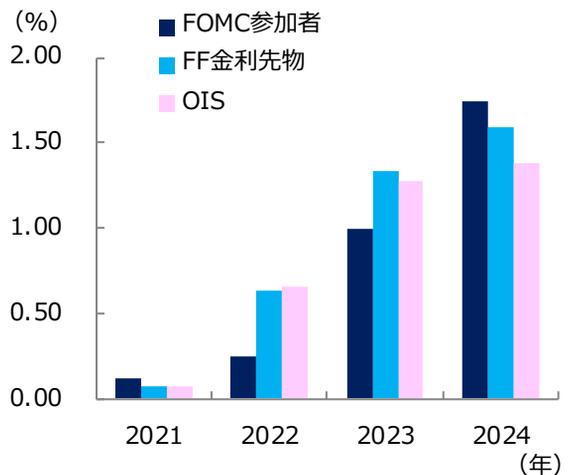
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

3日の米国株・米金利の推移



※日付、時刻は日本時間

米政策金利見通し*



*各年末時点におけるFF金利誘導目標（中央値）

※11月3日時点、FOMC参加者は9月22日時点

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

【指数の著作権等】

- S&P500種指数は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCまたはその関連会社の商品であり、これを利用するライセンスが委託会社に付与されています。S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLC、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングスLLCまたはその関連会社は、いかなる指数の資産クラスまたは市場セクターを正確に代表する能力に関して、明示または黙示を問わずいかなる表明または保証もしません。また、S&P500種指数のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。